

設立趣旨書

働くママの一日は忙しい。昼は仕事、朝晩は家事と育児に追われる。家に仕事を持ち帰ることもある。1人でいくつもの役割をこなさなければならなかった保育園時代を過ぎ、子どもが小学校に上がると、今度はPTAという役割も降ってくる。

1980年には専業主婦世帯と共働き世帯の割合は65：35であった。昔は専業主婦が主流であったが、女性の社会進出に伴って共働き世帯は年々増加し、今では逆に65%と大多数が共働き世帯となった。

一方、PTAは昔の専業主婦を前提とした運営手法のままであり、平日の日中に稼働する割合が高く、課題も多い。これには、毎年のように役員や委員会のメンバーが変わるため、前年踏襲を基本として引き継いでいく方が運営しやすいという背景がある。結果、平日に仕事を休んでまでPTAに参加しなければならない働くママの負担は重くなっている。

PTAの中には、役員や各種委員会など、保護者が担うべき役割もある一方、ベルマーク収集や地域パトロール、カーテン洗いや講演会参加など、必ずしも保護者でなくてもよい役割もある。

地域に目を向けると、仕事をリタイアした高齢者や、時間のある大学生など、保護者以外にも子育ての担い手は存在する。子育てを親だけが担うのではなく地域の中で分散することができないか、と私たちは考える。

この法人は、PTA活動を負担に感じるママが、自分の代わりにPTA活動を担ってくれる人を地域の中で見つけられるサービスを提供する。PTAの代行依頼がアプリやWEB画面上で簡単にできるデジタルツールには、この機能に加え、お知らせ、出欠管理、カレンダー、アルバム、緊急連絡、お休み連絡、ファイル共有、PTAタスク可視化、いいねボタン、コメント、返信、決済、プッシュ通知などの機能も実装することで、学校やPTA、保護者の活動を全般的にサポートする。

今や新聞や雑誌ではなく、インターネットで情報を得る時代である。にも関わらず、学校やPTAはいまだに紙の配布物や手作業の集計が多い。私たちは、まずはアプリやWEBで使い勝手のいいツールを普及させることによって、学校やPTAのデジタル化を進め、学校とPTAと保護者間の円滑なコミュニケーションと作業の効率化を促進する。同時に、学校や地域にPTA代行に対する理解を得る努力を重ねながら、次のステップとして、PTA代行業業に取り組む。

私たちは、「地域の中でPTA活動を代行する」という新しい発想を実現させることによって、子育てママを支援し、少子高齢化が進む日本の社会課題を解決するという目的のために、営利のみを追求せず、情報公開による信頼性や透明性を維持し、継続性と責任性のある法人として活動したく、NPO法人ハピタを設立する。

「子どもを産むことで私のキャリアが終わってしまう」「子どもを産んだら自分1人で頑張って育てなければならない」と考える女性が少しでも減ってくれることを願う。子育てや仕事を卒業し、趣味や生きがいに時間を費やしている高齢者が、余った時間で地域の子育てに協力してくれるようになってくれることも願う。さらに、「できれば関わりたくない」と多数の保護者に思われているPTAが、「楽しそう、ワクワクする、積極的に関わりたい」と思ってもらえる世界に変わってくれることも願う。

子育てママの負担を地域で分散することができる世の中にしたい。それが、少子高齢化が進む日本の社会課題、地域課題の解決への一助となれば幸いである。

平成30年4月23日

NPO 法人ハピタ

設立代表者 加藤拓也